



学校創立142周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和3年10月22日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ
ぎ
な
明るく元気なあいさつができる子ども
ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
仲よく笑顔いっぱいの子ども
～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



阿木名小中学校

道を開く・・・

校長 井上 泉

私は前向きな考え方をする人が好きです。そういう人に出会うと、私自身が励まされるし、その人が絶えず1歩、2歩と前進していることがわかるからです。「先生、今度のテストは30点だったけど、次は35点取るようにがんばるよ。」その生徒は決して「30点しかとれなかった。こんな点数しかとれないような僕なんか、どうせ勉強ができないんだ」とは言わないのです。100点満点で30点といえ、必ずしもよい成績とはいえないかもしれませんが、悲観して落ち込まない考えが素敵だと思うのです。

誰でも努力すれば成績が伸びたり、何かしら得るものがあります。悪い結果ばかりに心をとられ、努力する意欲までなくしてしまうのは、とても残念に思います。もちろん伸びや、それぞれの力に差があるのは当然ですが、その人なりの伸びは必ずあるはずなのです。

物事を消極的に考える人はがんばっている人を手本にしようとはせず、むしろねたんだり、責任を他人のせいにするようなところがあります。反対に、積極的な人の考えはあらゆる場面を、他人のせいとせず、自分のいたらない点を反省し、マイナスの原因をプラスに生かす努力をします。そして他人の欠点よりも、できるだけ長所に目を向けて学ぶようにしています。ですから、どちらの考え方をするかは、進歩、向上にとってとても大事なことになるのです。

ずいぶん前のことです。勉強は苦手だけれども、陸上には少し自信があるという生徒がいました。その生徒は一生懸命練習をして駅伝チームの中心選手になったのです。そうすると、人からほめられるし、努力をすればむくわれる喜びを知りました。そして勉強にも自然に力が入り、希望する高校・大学へ進学しました。人は誰でも、長所と欠点、得意・不得意があります。その生徒はまず自分の得意なところに目をつけ、それを伸ばすようにしたのです。その結果、努力の成果を学び、不得意分野の克服をすることにつながりました。阿木名校の子どもたちにも、それぞれに長所があります。その長所を伸ばしつつ、苦手な点を克服するよう先生方も声かけを行っています。

子どもたちも何か得意なものに取り組んで「やればできる」という自信を身につけてほしいと願います。それを踏み台にして、苦手分野に切り込んでいくのです。そうすればすばらしい道が開けてくるはず。残りの2学期に、夢中になれるものを見つけ、取り組んでくれることを期待します。

